

メディカット カニューラ

再使用禁止

【警告】

＜使用方法＞

※本品を血液回路に接続する際は、血液回路のオスコネクタを本品のメスコネクタへ真っ直ぐに回転させながら挿入した後、嵌合が十分であることを確認してからロックを締め付け、接続部に緩みがなく確実に接続されていることを確認すること。[接続部の緩み・外れが発生し、血液漏れ、空気混入を起こすおそれがある。]

【禁忌・禁止】

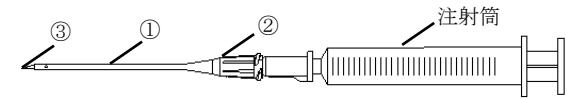
＜使用方法＞

- 1.再使用禁止  
2.再滅菌禁止

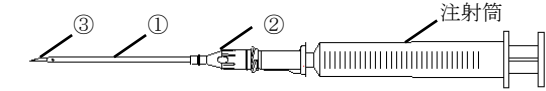
※3.穿刺前及び穿刺中にカニューラの中で金属穿刺針を前後に動かさないこと。[カニューラの損傷、破損につながるおそれがある。]  
※4.穿刺やカニューラの挿入がうまくいかないときには刺し戻しはせず金属穿刺針とカニューラを一緒に引き抜くこと。[カニューラの先端が破断し体内に残る可能性がある。]

※【形状・構造及び原理等】

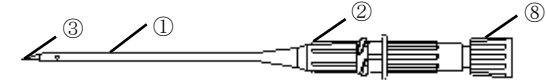
注射筒付タイプ(ハイフロータイプ)



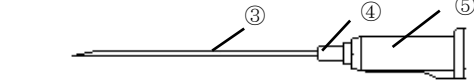
注射筒付タイプ(ルアーロックタイプ)



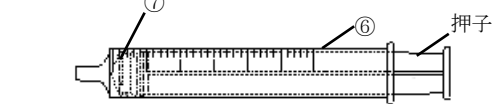
Vプラグタイプ



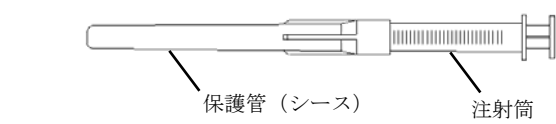
金属穿刺針



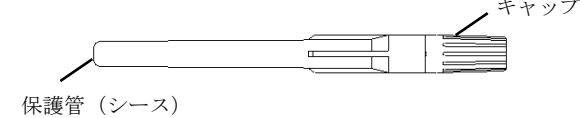
注射筒



保護管(注射筒付きタイプ)



保護管(Vプラグタイプ)



※本品は、注射筒が付いているタイプと、Vプラグが付いているVプラグタイプがある。本品は、血管に穿刺し、フラッシュバックを確認後、金属穿刺針を抜去し、カニューラを血管に残し、カニューラのハブに血液回路を接続することで、血液の脱送血を行うことができる。本品は電子線滅菌済みである。

＜種類＞

カニューラ外径(mm)		1.9 15G	1.7 16G	1.5 17G	1.3 18G
カテーテルハブ カラーコード		ブルー グレー	ホワイト	レッド バイオレット	ピンク
カニューラ形状 (タイプ)		ハイフロー	ハイフロー	ハイフロー	ハイフロー
			ルアーロック	ルアーロック	
流量【代表値】 (mL/min)	ハイフロー タイプ	281	215	157	105
	ルアーロック タイプ	—	205	148	—
有効長 (mm)	ハイフロー タイプ	28			
	ルアーロック タイプ	46			
側孔		有又は無			

※流量代表値の試験法:JIS T3249 流量試験の実測値による。

※＜原材料＞

No.	構成部品名	原材料
①	カニューラ(潤滑剤)	ポリプロピレン(シリコーン油)
②	カテーテルハブ	ポリプロピレン
③	穿刺針(潤滑剤)	ステンレス鋼(シリコーン油)
④	針管保持部	アルミニウム合金
⑤	針基	ポリプロピレン
⑥	外筒	ポリプロピレン
⑦	吸子チップ(潤滑剤)	スチレンブタジエンゴム(シリコーン油)
⑧	Vプラグ	ポリプロピレン/ポリエチレン

【使用目的又は効果】

血液透析を含む血液浄化療法を行うために血管を確保し、血液の脱送血を行うこと。

## 【使用方法等】

- ※1.留置位置を決め、その位置を皮膚清拭消毒する。
- 2.包装を開封し、製品を取り出す。  
〔注意〕筒状容器包装品を開封する際は、必ずキャップを捻って開封すること。〔リジットラベルを基点に横に曲げる様に開封すると注射筒を破損するおそれがある。〕
- ※3.注射筒又はVプラグをもち、穿刺針を注射筒又はVプラグに固定したまま真っ直ぐ保護管（シース）から引き抜く。
- ※〔注意〕穿刺針を真っ直ぐに引き抜くこと。〔針先が保護管（シース）内壁に触れると、針先が傷んだり、針先で保護管（シース）を削り、その削り片が針先に付着するおそれがある。〕
- 4.カニューラ先端より穿刺針が出ていることを確認する。  
〔注意〕滅菌により、カニューラ先端が針先に被っている場合があるため戻した後にカニューラ先端が破損していないか確認し、破損しているものは使用しないこと。
- 〔注意〕穿刺前にカニューラと穿刺針の張り付きがないことを確認する場合には、カニューラを回転させて行い、カニューラの中で穿刺針を前後に動かさないこと。〔穿刺針でカニューラ先端を傷付けるおそれがある。〕
- 5.本品を血管に穿刺する。  
〔注意〕穿刺針を曲げて使用しないこと。〔針管保持部から穿刺針が抜けるおそれがある。〕
- 6.押子を引いて、あるいはVプラグタイプでは針基への血液のフラッシュバックを確認して、血管内に正しく挿入されたことを確認する（ただし、むく針を除く）。
- 7.カニューラ先端が確実に血管を確保するよう、必要な深さまで押し進めてから、穿刺針と注射筒又はVプラグを抜き取り、カニューラのみを残す。  
〔注意〕血管内に穿刺針を長く放置しないこと。〔血管壁を損傷したり、押子が外れ、出血するおそれがある。〕
- ※8.本品と血液回路をしっかりと接続する。（警告参照）
- 9.接続部にテープを巻き、両者を固定し、留置部位を滅菌ガーゼ等で覆う（図1）。必要に応じて抗生物質入り軟膏を挿入部に塗布する。

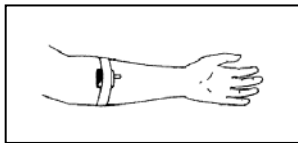


図1

- ※10.チューブに張力がかかりカニューラが抜けたり、チューブが外れたりする事故防止のため血液回路等の延長チューブを輪状にテープで止める（図2）。

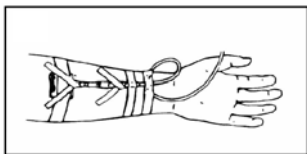


図2

## 【使用上の注意】

### 1.重要な基本的注意

- ※ ● カニューラ及び血液回路内の血流異常（固定異常、カニューラ内の詰まり、カニューラ先端口の血管内壁当たり、血管狭窄等による）、静脈圧上昇（返血回路内凝固又は閉塞、カニューラ脱落、体外への脱血不足等による）、あるいは気泡混入がなく血液が正常に流れていることを絶えず確認すること。
- ※ ● 血液回路等と本品との接続部は使用中に緩むことがあるため定期的に血液漏れや外れに注意し、適宜締め直し等の適切な処置を行うこと。〔感染の原因、空気混入、異物混入、血液漏れなどの原因となるおそれがある。〕
- ※ ● カニューラを鉗子や注射針、はさみなどの鋭利物等で傷を付け

ないように注意すること。〔カニューラに液漏れ、空気の混入、破損、損傷が生じる可能性がある。〕

- ※ ● 落下、振動等の衝撃に注意して保管すること。〔カニューラの浮き盛りや、針先にて保護管（シース）内壁を削り、針先異物発生の原因となるおそれがある。〕

※※ ● 造影剤の投与に使用しないこと。

### 2.不具合・有害事象

本品の留置操作中あるいは留置中に、以下の不具合・有害事象があらわれることがあるので、異常が認められたら直ちに適切な処置をすること。

#### 重大な不具合

気泡の混入、カニューラ内の詰まり

#### 重大な有害事象

- ※ 血流異常、静脈圧の上昇、血管穿孔、動脈誤穿刺、神経損傷、血腫形成、血管閉塞、空気塞栓症、菌血症、敗血症、漏血

## 【保管方法及び有効期間等】

### 1.保管条件

室温下で、水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

### 2.有効期間

包装上に記載（自己認証（当社データ）による）。

## 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元

コヴィディエンジャパン株式会社

東京都港区港南一丁目2番70号

カスタマーサポートセンター：0120-998-971

外国製造業者名

Covidien llc

（コヴィディエン エルエルシー）

アメリカ合衆国